

お祭り屋台での容器持参実験 新宿区原町一丁目町会

原町一丁目町会
会長 松永 健

例大祭の中で、リユース容器の持参を推進

実施時期: 2013年9月13日(金)～14日(土)

実施場所: 例大祭会場(天祖神社) 新宿区原町1-42



チラシの掲示板への掲示、新聞折込配布等による情報提供の実施

原町一丁目 天祖神社

**お祭り
ごみゼロ実験**

ごみゼロに向け、お皿やタッパーウェアをご持参ください。

◆実施期間◆
2013年9月13日(金)～15日(日)

◆実施地域◆
原町一丁目町会 お祭り会場(天祖神社)
新宿区原町1-42

原町一丁目町会では、お祭りでごみゼロに取り組みます！



天祖神社外観

いよいよお祭りの時期ですね。そこでみんなの楽しみが焼きそばやたこ焼き等のおいしい食べ物。でも、その食べ物をいれる容器には多くの使い捨てのトレーやカップが使われています。この使い捨ての大量のごみを減らしましょう、という趣旨でおこなわれるのが今回の「ごみゼロ実験」です。
家からタッパーウェアやお皿等を持参したり、リユースコップ入りの飲料を飲み終わったら回収場所に返却してもらったり、ぜひこの実験にご協力ください。(詳細は裏面をご覧ください。)

なぜ「ごみゼロ実験」?

「もったいない！」という気持ちでものを大切に使い、ごみを減らすのは、とても気持ちのいいことです。しかも、近年の気温上昇や異常気象の原因と言われる「CO₂濃度」の上昇には、ごみを燃やした時に排出されるCO₂も含まれています。そこで、今回は、ごみになる使い捨て容器をお祭り会場で一切使用しないことにチャレンジすることといたしました。みなさんの協力を得て、ごみゼロ、地球温暖化防止を実現させましょう。

ごみゼロ実験の方法

食べ物をお家に持ち帰る場合

ごみを減らしましょう！

家から持参したタッパーウェアやお皿に盛りつけます

会場内で飲み物を飲む場合

リユースコップに注ぎ、提供します。飲み終わった後、会場内の回収ボックスにリユースコップをご返却いただけます。

リユース容器の持参者

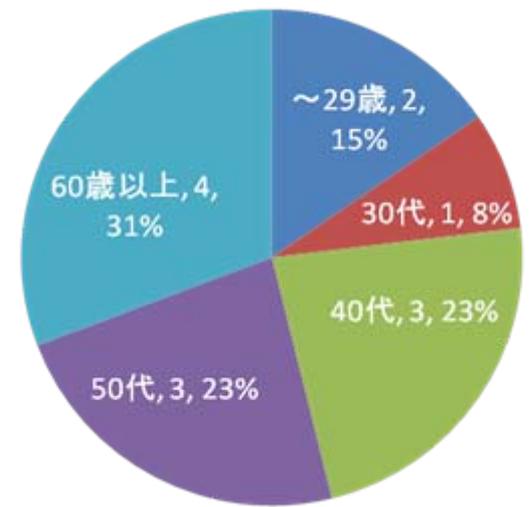
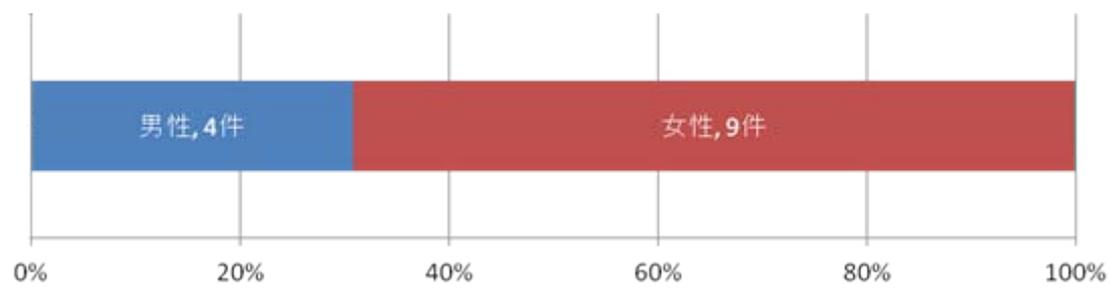
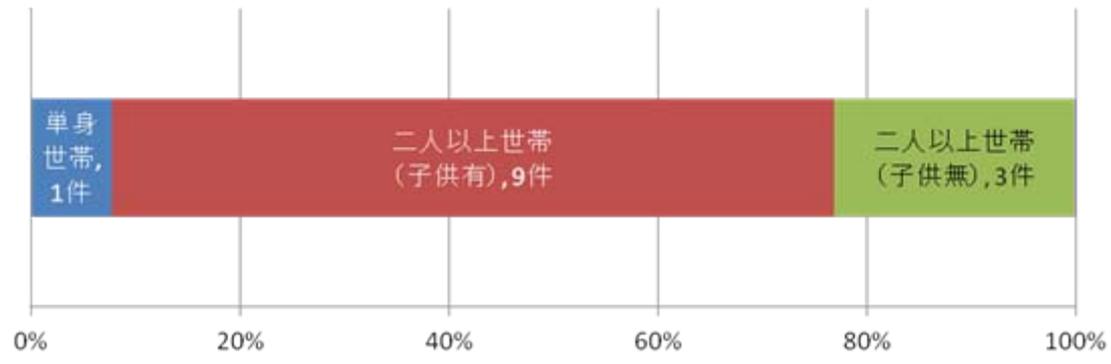
	持参者数
やきそば	9人
たこやき	7人
焼きとり	1人
合計	17人



2日間合計の来場者数は、延べ1,000人

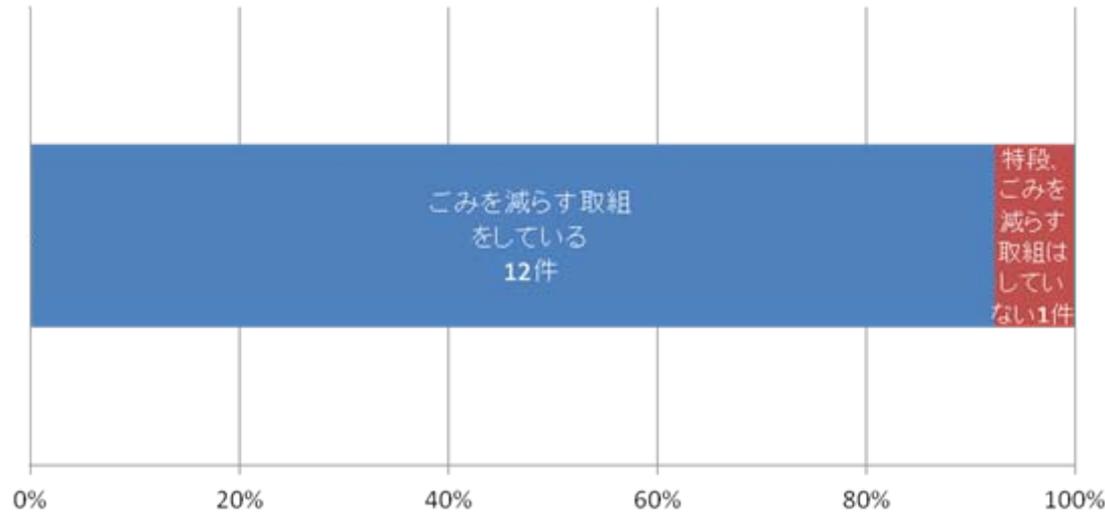
リユース容器持参者の割合は、2%。

アンケート回答者は、二人以上世帯(子供有)、女性が多い。



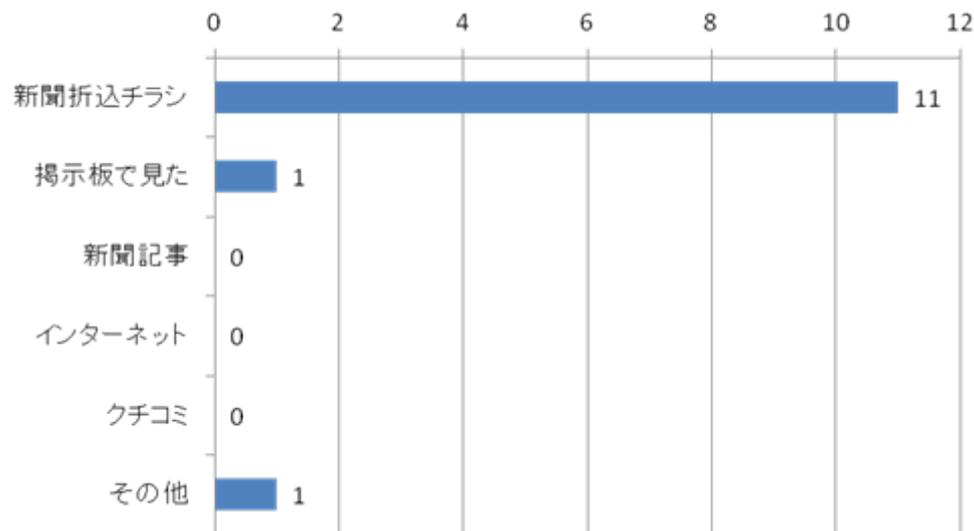
リユース容器持参者へのアンケート調査結果(n=13)

問1 ふだん、ごみを減らす取組をしていますか？



リユース容器持参者は、ふだんからごみを減らす取組をしている。

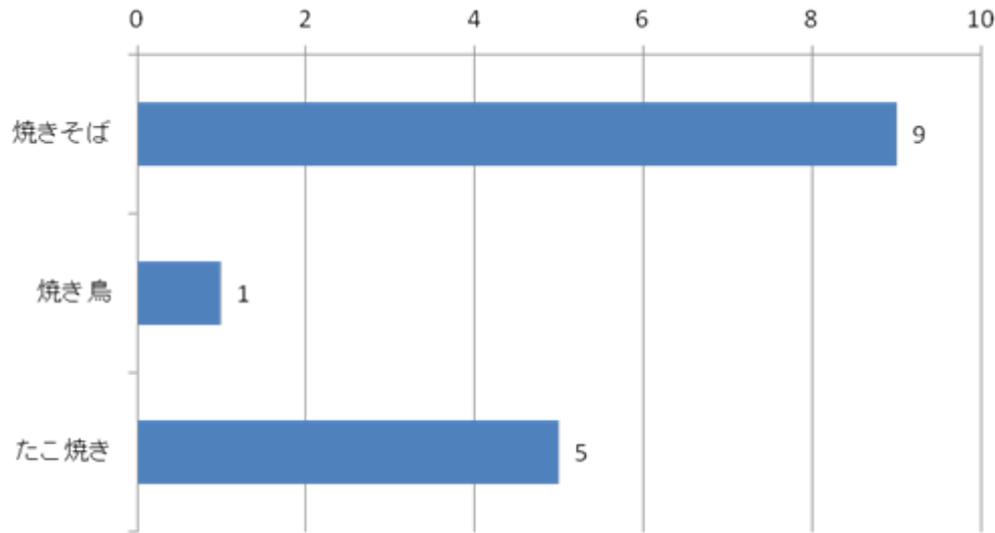
問2-1 リユース容器持参の呼びかけを何で知ったか？



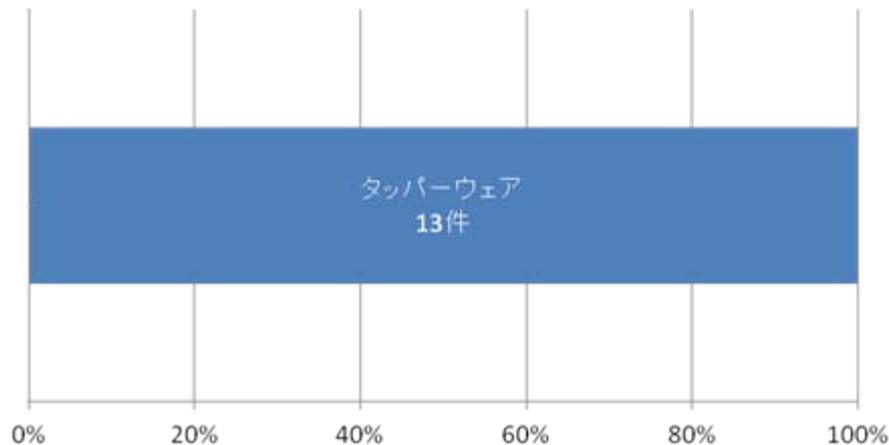
リユース容器持参者は、新聞折込チラシ等を通じ、リユース容器の持参が呼びかけられていることを知っていた。

リユース容器持参者へのアンケート調査結果その1 (n=13)

問3 リユース容器持参で買ったものは？



問4 リユース容器として持参したものは？



リユース容器持参者が持参した容器は、
タッパウェア。

焼きそば、たこ焼きの持ち帰りへの利用
が多かった。

リユース容器持参者へのアンケート調査結果その2 (n=13)

問5 リユース容器持参の条件



問6 繰り返し使える食器入りで買いたい食品は？ 購入できたらよいと考える場所は？

繰り返し使える食器入りで買いたい食品	購入できたらよいと考える場所
惣菜	弁当屋
刺身、豆腐、肉(グラム量り売り)	スーパー
焼きそば、焼きとり、うどん、天丼	どこでも

今回の社会実験の成果

- ・町会のお祭りで出るごみの量を減らす初めての取組となり、お祭りの準備に関わる人たちのごみ削減への意識が高まった。
- ・リユース容器持参者への直接的な割引や新宿エコ自慢ポイントの付与など、何らかの経済的なインセンティブがあることを事前に告知し、実際に付与すれば、リユース容器持参者が増える可能性あり。
- ・近隣の町会からの参加者の注目を集めており、今後、近隣で開催されるお祭り等でのリユース容器持参の動きが拡大する可能性あり。

(参考)家庭からのリユース容器持参に伴うごみ発生量の削減効果

$$\underline{(\text{使い捨て容器の重量原単位: } 7\text{g}) \times (\text{リユース容器持参者数: } 17\text{人}) = 119\text{g}}$$

※「3R行動見える化ツール」での関連記述

5) 量り売り、小分け販売

- ・天然資源削減量（原油換算） = 8.4 ml
- ・廃棄物発生削減量 = 7g
- ・最終処分削減量 = 0.39g
- ・二酸化炭素削減量 = 37 g-CO₂

<原単位の計算に関する基本的考え方>

- ・消費者の持ち込んだマイ容器への惣菜等の量り売り販売1回当たりの3R効果を計算。
- ・マイ容器の使用によって、使用されなかった使い捨て容器の重量は、スーパーマーケット等の惣菜コーナー等で広く使用されているPS（ポリスチレン）製容器と仮定。
- ・マイ容器は繰り返し使えるため、製造時の環境負荷は考慮していないが、洗浄の際の環境負荷は考慮した。
- ・使用されなかった使い捨て容器の重量分だけ、天然資源量が削減できるものとした。
- ・使用されなかった使い捨て容器の重量分だけ、廃棄物発生量が削減できるものとした。
- ・廃棄された使い捨て容器は全て焼却されるものと仮定。
- ・使用されなかった使い捨て容器の重量分だけ、容器の原料採掘、製造、輸送、廃棄物の処理に伴って排出される二酸化炭素量が削減できるものとした。
- ・使用されなかった使い捨て容器の重量は入力者の任意により、変更可能。

(資料)環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室「3R原単位の算出方法」

今後の課題

- ・作り置きをしておく必要がある、焼きそば、焼き鳥、たこ焼きは、使い捨て容器で提供せざるを得なかった。重ねられるリユース容器があれば、イベント主催者によるリユース容器の利用促進が図れるのではないかと考える。
- ・新聞折込チラシには一定のPR効果がみられたものの、リユース容器持参率は2%にとどまった。アンケート調査結果からは、リユース容器の持参条件として、“何らかの経済的なメリットが得られること”を挙げた人が比較的多くみられた。お金や買い物ポイントや割引券の提供と連動した仕組みの導入が今後の課題と考える。
- ・地元商店街が屋台での飲食物提供者、来場者が近隣住民と、顔の見える関係があることで、今回のリユース容器の持参が可能になった。アンケート調査結果からは、リユース容器の持参条件として、“食中毒にならない”を挙げる人も少なからずおり、顔の見える関係があることがリユース容器持参の前提条件となろう。